

ウェルビーイング実践校 TOCO—TON（トコトン）提案書

「おかやのまちじゅう学園化構想」

R6. 10月

岡谷市教育委員会

1. どんな学校をつくりたいか？どんなことに挑戦したいか？

まちじゅうの園・校がひとつの学園となるよう、市内の小中学校を地域ごとにひとつの学校群としてグループ化してつなぎ、物理的交流や教育ICTを活用した施設間連携の基盤を構築し、学校が離れていても子どもたちや教職員が協働、連携しながら、少子化に対応したウェルビーイングな学校づくりを推進する。

学校群をベースに学校と地域の既存の枠組みを抜本的に見直し、地域とともに歩む新たな「岡谷版コミュニティ・スクール」への移行を推進し、市内全域への小中一貫教育の導入の基盤づくりを進める。

2. 何に、どのように取り組むのか？

(1) 市内7小学校、4中学校を学校群化（グループ化）

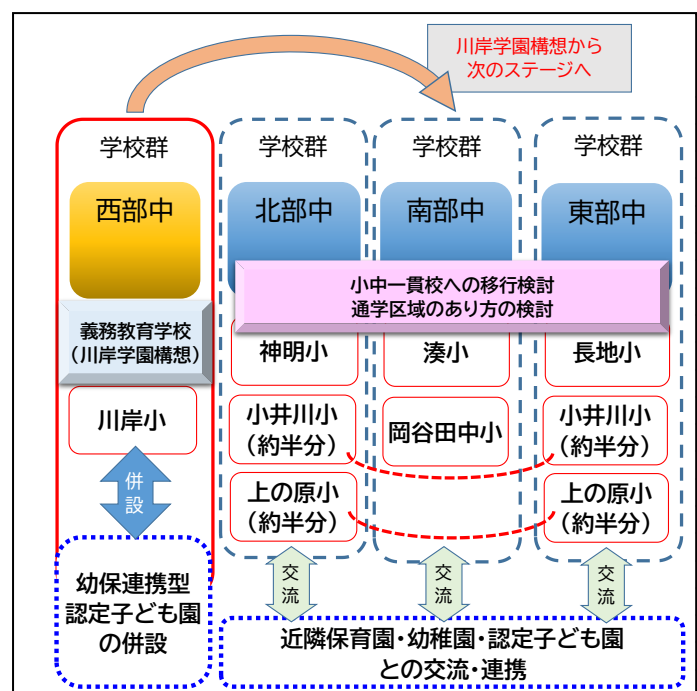
現在、本市が推進している施設一体型義務教育学校と幼保連携型認定子ども園を一体的に併設する「川岸学園構想」を足掛かりに、県内でも事例の少ない、幼保小中をつなげる新たな学びの環境づくりの市内全域への展開をめざす。

(2) 学校群ごとに、訪問型交流、ICT活用によるネットワーク型交流のスタイル構築

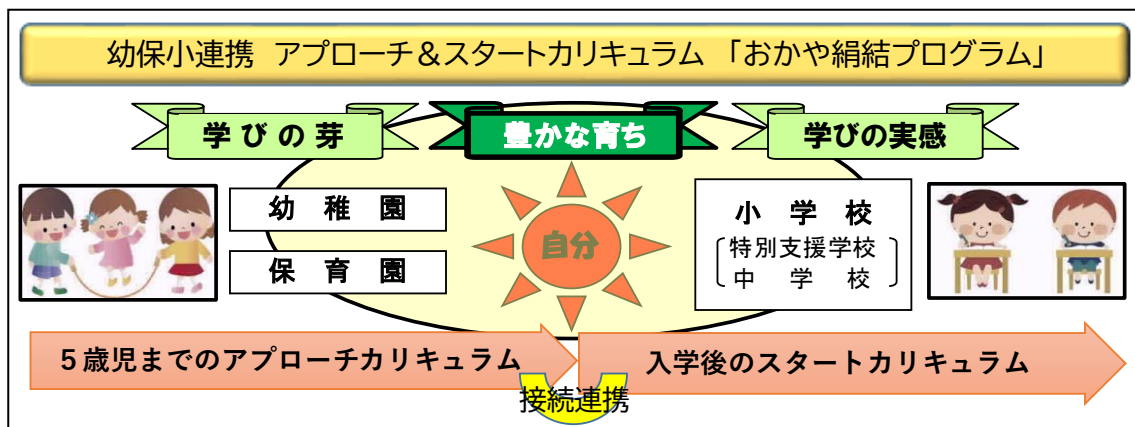
加配教員が中心となり、園校間、小中間の連携・交流の土台を構築し、更にICT（1人1台端末等）を活用して、情報化社会に対応した学校間

を情報機器でつなぐ、新たな交流・連携のスタイルの検討や海外姉妹都市（Mt. プレザント市）の子どもたちとのWeb交流等を模索し、英語教育の充実を図る。

少子化を見据えた異年齢交流の環境づくりにより、児童生徒の主体性のもと、幼児期からの多様な人との関わりを通じて、自己肯定感や自己有用感を醸成できる、楽しい学校の環境づくりを推進する。



(3) 幼保小接続期の独自カリキュラム「おかや絹結プログラム」の充実、実践
本市では、県や県内他市町村に先駆け、幼保小接続期の大切な視点やカリキュラムをまとめた独自の「おかや絹結プログラム」を令和3年度に策定し、令和4年度から実践導入している。加配教員が先導役となり、プログラムの更なる充実、接続期を円滑につなぐノープロブレムの学校づくりを推進する。



(4) 既存の枠組みから新たな岡谷版コミュニティ・スクールへの移行

地域との協働による学校づくりを進めるため、既存の組織を抜本的に見直し、国の枠組みによる新たなコミュニティ・スクール（学校運営協議会型）への移行をめざす。学校に参画する個人や団体をつなぐ調整役として加配教員が関わることで円滑な移行を図る。

更に、地域住民との様々な関わりの中で、野菜や植物、周辺山野など、地元の自然を最大限に生かした自然保育、自然教育に地域住民が参画する環境を整え、児童生徒の非認知能力を醸成し、自然と共存する信州教育の魅力を高める。

(5) 市内全域への小中一貫教育（施設分離型）の基盤づくり

地域の理解を得ながら既存の通学区域の再構築として、小学校から中学校への入学が分散する学区を見直し、市内全域での施設分離型小中一貫校の実現可能性を高めていくための基盤づくりを進める。

加配教員が小中一貫教育の市内全域への展開や一貫した教育カリキュラムの効果検証の主務者となり、本市がめざす新しい教育の先導役となる。

3. 提案者の情報

提案者 岡谷市教育委員会 教育総務課 教育企画主幹 西山 壘

連絡先 電話：0266-23-4811（内線 1218）

Mall：kyouiku@city.okaya.lg.jp

対象学校名 岡谷西部中学校 - 川岸小学校

岡谷北部中学校 - 神明小学校 - 小井川小学校 - （上の原小学校）

岡谷南部中学校 - 岡谷田中小学校 - 湊小学校

岡谷東部中学校 - 長地小学校 - 上の原小学校 - （小井川小学校）